

健苗育成は収量・品質確保の第一歩！

- ☑ 健苗を適期に移植できるよう、**計画的な段播き**を実施
- ☑ コシヒカリ BL 種子は休眠が深いと推定、浸種・催芽は**適正水温**を守る

1 育苗準備

(1) 播種計画

- ・ 健苗を適期に移植するため、田植日から逆算した播種計画を立てる。
- ・ 田植期間が長い場合は、播種日を複数回に分ける段播きを行い苗の老化を防止する。

表1 田植日から逆算した作業スケジュール（目安）

| 育苗様式 | | 播種回数 | 浸種日※ ¹ | 播種日 | 田植日 | 育苗日数 |
|------|---------------------|------|-------------------|------|------|------|
| 稚苗加温 | ハウス | 1回目 | 4/4 | 4/15 | 5/10 | 25日 |
| | | 2回目 | 4/20 | 4/30 | 5/20 | 20日 |
| | | 3回目 | 5/4 | 5/12 | 5/30 | 18日 |
| 稚苗加温 | 露地プール※ ² | 1回目 | 4/1 | 4/12 | 5/10 | 28日 |
| | | 2回目 | 4/15 | 4/25 | 5/20 | 25日 |
| | | 3回目 | 5/2 | 5/10 | 5/30 | 20日 |

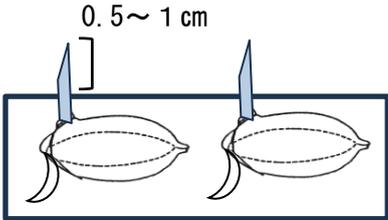
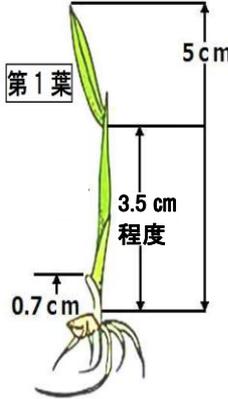
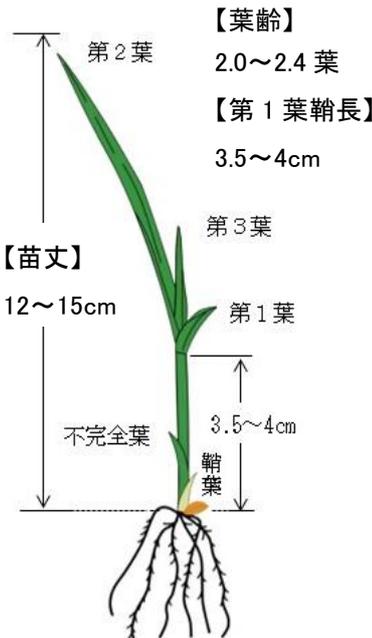
※1 浸種期間は早い時期ほど長く、遅い時期ほど短くなります。

※2 上記の日数はあくまでも目安です。実際の気候と苗を見て、育苗・田植え作業を行いましょう。

(2) 種子消毒～播種

| 作業 | ポイント | |
|------------------|---|-------------------|
| 塩水選 ↓ 種子消毒 | <ul style="list-style-type: none"> 【塩水選】・種子を塩水に浸し、浮いた粃を取り除く（比重：うるち 1.13、もち 1.08） 【薬剤消毒】・浸漬処理の場合、薬液の温度は 10℃未満にしない 【温湯消毒】・湯温(60℃)と浸漬時間(10～15分)を正確に測定する <ul style="list-style-type: none"> ・防除効果の向上を図るため、微生物農薬との体系処理を行う ・もち品種の温湯消毒は避ける（発芽率が低下しやすいため） | |
| 浸種 | <ul style="list-style-type: none"> ・ コシヒカリBL：浸種水温 12℃、積算水温 120℃が目安 ・ コシヒカリBL以外の品種：浸種水温 10～15℃、積算水温 100℃が目安 ・ 発芽揃いが悪くなるため、浸種初期は絶対に10℃未満の低水温にしない ・ 酸欠防止のため、浸種の水量は種子容量の2倍（種子粃 1kg に対して水約 3.5ℓ）以上 ・ 消毒効果を高めるため、前半4日間は水を更新しない → その後は1～2回更新（温湯消毒の場合は、開始後1～2日おきに更新する） | |
| 催芽 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水温 30℃で1～2日間の処理を目安とし、80%以上の種粃がハトムネ状態に達したら終了 ・ 30℃を超えると細菌性病害、30℃を下回るとばか苗病が発生しやすくなる | <p>芽の伸ばし過ぎに注意</p> |
| 播種 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 稚苗の播種量は乾粃で1箱当たり 130～140g（催芽粃で 160～175g） ・ 灌水量は1箱あたり1～1.2ℓ（箱下からしずくが垂れる程度）が目安 | |

2 健苗育苗

| | 出芽期 | | 緑化期 | 硬化期 |
|------|---|---|---|--|
| | 加温 | 無加温 | | |
| 温度管理 | 30℃ | 昼 30℃ 夜 15℃以上 | 昼 20～25℃ 夜 15～18℃ | 昼 15～20℃ 夜 10℃以上 |
| 期間 | 2～3日 | 4～5日 | 2～4日 | 12～13日 |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・緑化への移行時は急激な温度変化を避ける →白化苗の防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・シルバーラブまたはラブシート等とシルバーポリトウの2重被覆 ・ハウス内の温度が <u>30℃</u> を超えないように適宜換気 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラブシートやトーカンほなみ等の1重被覆 ・低温時等は2重被覆で保温に努める ・第1葉が完全展開したら被覆資材を取り除く | <ul style="list-style-type: none"> ・日中はハウスを開放 →最高温度が <u>20℃</u> を超えないよう注意 ・低温や降霜が予想される場合は再度被覆 →最低温度が <u>8℃以下</u> にならないよう注意 ・田植え5～7日前から夜間もハウスを開放し、外気にならす（低温・降霜時は開放しない） |
| 終了目安 | <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>出芽長 0.5～1.0cm</u> が目安 →伸ばしすぎに注意！  | <ul style="list-style-type: none"> ・第1葉鞘長 3.5 cm程度、第1葉が完全展開  | <ul style="list-style-type: none"> 【葉齢】 2.0～2.4葉 【第1葉鞘長】 3.5～4cm 【苗丈】 12～15cm  | |
| 水管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・覆土が盛り上がっていたら灌水し、沈下させてから緑化へ | <ul style="list-style-type: none"> ・土の表面が乾いていたら1日1回、<u>午前中</u>に灌水 ・プール育苗では、緑化終了時から入水開始（最初は育苗箱の高さまで） | <ul style="list-style-type: none"> ・前半は1日1回、<u>午前中</u>に十分灌水 ・後半は1日1～2回 →温度低下を防ぐため、<u>夕方以降の灌水は避ける</u> ・プール育苗の水位は苗丈の半分程度 | |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・苗床を均平化する（苗箱の傾きは生育がバラつく原因になる） | <ul style="list-style-type: none"> ・温度の急変（8℃以下、35℃以上）はムレ苗が発生しやすくなる | | |

3 露地プール育苗のポイント

| | |
|------|---|
| 準備作業 | <ul style="list-style-type: none"> ・置床は均平にし、傾斜が大きい場合は2～3つに区切り、それぞれの区切りで置床を水平にする ・水が循環できるように、プールの端から10cm程度空けて箱を並べる |
| 被覆 | <ul style="list-style-type: none"> ・被覆資材はシルバーラブ#80 やトーカーほなみ等とシルバーポリトウ#80 の二重被覆とする ・降雨後は酸欠やヤケ苗にならないよう被覆の上やプール内にたまった水を排除する ・除覆、湛水後は苗が伸長しやすいので水温の上昇に注意し、必要に応じ水の更新を行う ・播種時期の遅い育苗など、被覆時に高温・多照が予想される場合はヤケ苗を生じやすいので、ヤケにくい被覆資材（トーカーほなみ、ハイホワイトシルバー等）を用いる |
| 水管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・緑化が終了（第1葉が完全展開）したら被覆資材を取り、プール内の一番低い位置にある育苗箱の床土まで湛水する（緑化終了時に種子根が伸びてない場合は、湛水時期を遅らせる） ・浅い所の水位が1cm以下になったら草丈の半分まで湛水する ・霜注意報等、異常低温が予想される時は床土面以上に湛水（深水管理）する |

4 移植前追肥（べんとう肥）による老化苗防止

- ・苗の老化防止と田植え後の活着促進のため、田植え4～5日前に窒素成分で1箱当たり1～2gの移植前追肥を施用する（ただし、軟弱苗や徒長苗には使用しない）。

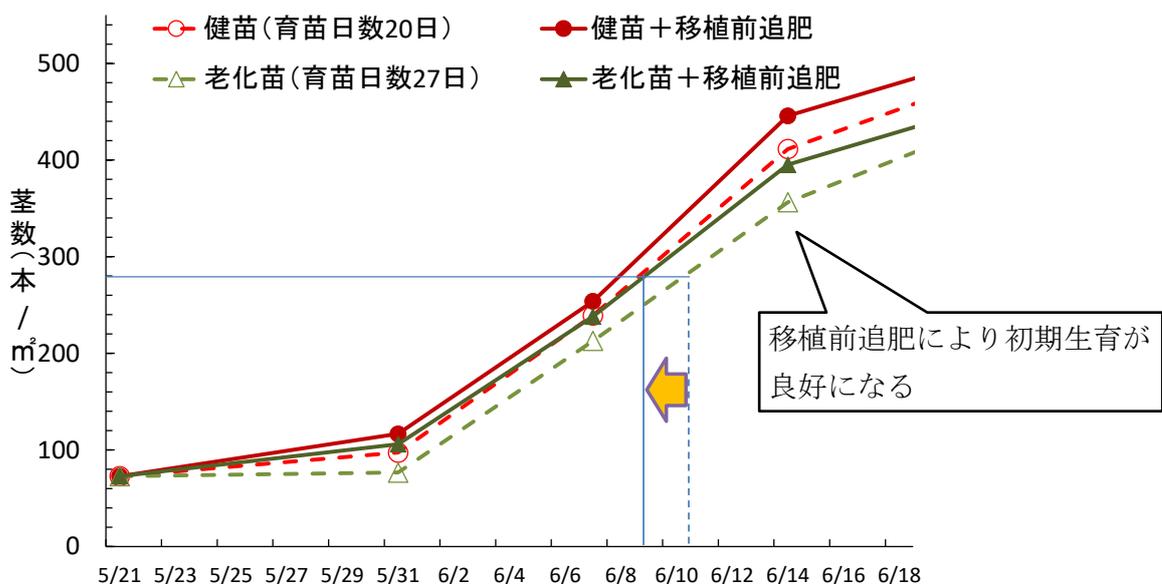


図 分けつ期の茎数の推移 (コシヒカリ、H25、26年、作研セ)